

# 岡山プライマリ・ケア学会会報

創刊号 平成二十三年七月

## 創刊号によせて

会長 福岡 英明



岡山プライマリ・ケア学会の福岡です。  
平成二十一年度より医療連携について研修会を開催して連携シートを作成しました。

今回広報誌「岡山プライマリ・ケア学会会報」を発行することになりました。

あまり華美にならず、会員にとって役に立ち、外へは学会の役割について理解いただける会報にしたいと考えています。

今後、会員の皆様にいろいろアイディアを出していただき、ニーズにそった、継続性のある、読みやすい、次号が楽しみになるような会報にしたいと思います。

どうか、よろしく願います。

## ◆ 榮譽

ジョンズ・ホプキンス大学が  
・ Distinguished Alumnus Award 2010.  
を授与された

この度、本学会の生みの親である青山英康先生が、米国ジョンズ・ホプキンス大学から「2010年度傑出した同窓生賞」を日本人で始めて授与されました。本学会としても大変榮譽であります。六月二十五日ホテルグランヴィア岡山で受賞式が行われました。

岡山大学名誉教授

ジョンズ・ホプキンス大学学士会終身会員

青山 英康



昨年十月に授与式が公衆衛生大学院 (School of Public Health) で行われましたが、健康上の理由で出席出来なかったために年末に記念の盾とメダルが送られて来ました。公衆衛生学の教育

と研究に生涯を捧げて来た者として、その業績を国際的な視点に立って総合的に評価されたことに大きな喜びを感じています。

ジョンズ・ホプキンス大学は一八七六年に創立され、あの有名な Sir William Osler が内科学教授として開講した大病院の質的なレベルの高さは有名であり、今日でも全米最高位を持続しています。公衆衛生大学院は世界で最初に創立された School of Public Health であり、常に全米一のレベルを誇っています。

今回受賞した賞は一九七〇年以来、毎年四十を超える学科・センターを包括する総合大学の全学的な領域から「傑出した業績をあげている卒業生」として選考され、今年度は十六名の受賞者が選ばれています。此れまでの受賞者の中から七名ものノーベル賞受賞者が出て居り、この賞の質の高さが推察できます。尚、今回の受賞者も含めてこれまでの全ての受賞者のリスト中に未だ筆者以外に日本人の名前が見当たらないのが残念です。

授賞理由としては、全国の医科大学の公衆衛生学・衛生学の主任教授で組織した「全国衛生学・公衆衛生学教育協議会」の世話人代表、そして、その延長線上にある日本学術会議会員としての地域医学と医学教育の研究連絡委員会の代表として国立大学の医科系大学における「社会医学の学外実習費（プライマリ・ケア実習費）」の予算化など、わが国における公衆衛生学の分野に留ま

らず地域医療の担い手としての医師の卒前学部教育・卒後臨床研修・生涯学習への幅広い医学教育への貢献に加えて、看護教育の名門である高知女子大学の学長としての任務の遂行が挙げられています。さらに、医師をはじめ保健・医療・福祉の幅広い専門職種の専門性に基盤をもつ専門的機能のレベル・アップを国際的な取り組みとして行ったことについても評価されています。

研究面ではSMONや森永砒素ミルク飲用児の後遺症に関するレベルの高い疫学調査(二重盲検・RCT)によって障害者の救済に貢献し、労災・職業病の予防と治療・社会復帰への貢献についても高い評価を与えてくれています。

最後に、ジョンズ・ホプキンス大学への貢献として、同大学の学士会の終身会員として、また、公衆衛生大学院の学部長諮問会議のメンバーとして、さらには日本人のみならず韓国人とマレーシア人の医師が公衆衛生学の生涯学習のためにジョンズ・ホプキンスに留学した際の奨学金の貸与制度の確立をジョンズ・ホプキンス大学同窓会の日本支部の活動として取り組んだことへの感謝も述べられていました。

## ◆平成二十三年度 事業計画

### 一 連携シート「むすびの和」普及事業

- ① 県医師会・郡市地区医師会・岡山市医師会プライマリ・ケア研究会・介護保険関連団体の研修会などで「むすびの和」を紹介
- 四月十四日 岡山県介護支援専門員協会岡山支部の南サロン会
- 十一月十一日 岡山市プライマリ・ケア研究会
- 岡山県介護保険関連団体協議会

### ② 浅口モデル事業

- ・五月十二日 第一回説明会
- ・六月三十日 第二回説明会

### ③ 岡山モデル事業

### ④ 津山モデル事業

### ⑤ 基金再生事業への参加

- ・「むすびの和」モデル事業
- ・岡山県医療情報・沿革医療システム推進検討委員会

### 二 プライマリ・ケア福祉医療塾

福祉系の専門職に少人数の塾方式で、医療の基本知識を理解してもらおう。

・塾の内容(在宅医療・脳卒中・心臓病・認知症・糖尿病・嚥下障害・ターミナルケア等)

### 三 広報誌の発刊

年間四回

### 四 在宅パネルディスカッション

十一月 「在宅認知症を支える」

### 五 岡山県医師会プライマリ・ケア部会研修会

年二回開催予定

平成二十三年九月二十三日(金・祝)

「医療・介護職のための感染症の知識」

### 六 岡山プライマリ・ケア学会

第十九回学術大会行

平成二十四年三月二十日(火・祝) 予定



## ◆関連団体の紹介

### ○多職種連携や一般啓発活動における

#### 岡山県歯科医師会の取組み

岡山県歯科医師会

岡山プライマリ・ケア学会役員

藤澤 伸彦

#### 一. ブランチプロジェクト

ブランチとは、枝を意味し岡山県内には、二十郡市区歯科医師会があり、地域の実情に応じ様々なイベントや啓発活動を行っています。これらの事業に対し岡山県歯科医師会は、サポートとしています。詳細は、県歯科医師会ホームページをご覧ください。

#### 二. 糖尿病医科歯科連携

糖尿病の合併症としての歯周病は有名ですが近年、歯周病菌が全身に様々な影響を及ぼして要する事がわかってまいりました。特に重度歯周病を持つ糖尿病患者では、血糖値を下げにくくすることがわかってきた。そのため、岡山県糖尿病医療連携の中で、糖尿病専門医療機関や糖尿病の治療・総合管理をする医療機関と連携し歯周病の治療を行っています。お近くの登録歯科医院、県庁ホームページをご覧ください。

#### 三. 歯科往診サポートセンター

県下全域を対象に寝たきり等で歯科往診を希望される方にお近くの往診歯科医院の紹介・往診に関する相談を専属の歯科衛生士が電話で対応しています。受付時間は、月曜日から金曜日の十時～十五時です。お気軽にお電話ください。時間外の往診申込みは、ホームページからも出来ます。詳しくは、歯科医師会ホームページをご覧ください。

#### 四. 摂食嚥下従事者研修会

岡山大学の協力で摂食嚥下従事者研修会初級コースを開催しています。年九回コースで、歯科関係者だけでなく他職種の方の受講も可能です。毎年三月より受講申込みを行っています。詳細は、岡山大学ホームページをご覧ください。

#### 五. その他

東日本大震災への医療支援・身元確認など幅広い活動を行っています。

(以上、県歯科医師会公衆衛生担当平岩先生から原稿をいただき加筆寄稿いたしました)

## ◆会員の声

### ○「岡山プライマリ・ケア学会

#### 第十八回学術大会」に参加して

岡山大学病院総合患者支援センター

社会福祉士 日高 千陽

今回、プライマリ・ケア学会に初参加し発表の機会を与えていただきました。

地域医療に携わる多職種の参加があり、立場や職種の視点の違いから地域連携を検討でき、日頃の関わりを再確認する機会になりました。私は医療ソーシャルワーカーとして、がん患者の在宅療養における家族支援というテーマで発表しました。

短期間の入院の中で、家族間の調整や心理的サポートは完結できるほど容易ではなく、在宅サービス提供者の方とどう連携していくかが課題となっています。参加者の方からも、在宅への移行時期について医療機関からの紹介が少し遅い傾向があるご意見をいただきました。急性期医療から緩和医療へ切れ目ない支援体制の必要性に対する認知がまだまだ低いこと、またがん患者の場合には病状・ADL情報以外に病状の受け止め方や本人・家族の意向をしっかり把握し情報提供することの大切さを改めて痛感しました。また、発表後のシンポジウム形式で意見交換の場が持てたことは大変良かったと思います。

今後より多くの参加者と意見交換や情報共

有が大切であることと同時に、この学会が貴重な機会となっていることを実感しました。これからも、プライマリ・ケア学会の継続とより多くのコメディカルの参加を期待し参加していきたいと思っております。

財団法人共愛会 芳野病院

管理栄養士 砂田 眞紀

私は、医療機関が運営する健康増進施設の管理栄養士として、今回の学会に参加させていただきました。これまで「プライマリ・ケア」については、総合診療科・家庭医・かかりつけ医といった医療の側の認識は持っていましたが、今回初めて参加し、行政・薬剤師会・介護施設・看護協会・教育・養成機関など、多職種の方々が関わる「プライマリ・ケア」の範囲の広さを再認識いたしました。

どちらの職域においても、よりよいケアを目指す熱意と、真摯な姿勢に触れ、地域を支える使命感を強く感じました。

栄養士の職場は、病院・学校・事業所・行政・企業・介護・福祉施設・保育園・フィットネスクラブ・料理教室等多方面にわたります。私たちの技術が、必要とされる方に、有効に提供できるよう、積極的に地域と連携し、ニーズを掘り起こしてゆくことが、これからの大きな課題です。どうかこれからも栄養士に、気軽に声をかけて下さい。

(平成二十三年四月二十四日 開催)

## ◆連携シート「むすびの和」普及事業

### ○連携シート「むすびの和」モデル事業

～ 浅口管内 ～ 研修会のレポート

岡山プライマリ・ケア学会 作業部会委員  
NPO法人総合ケアシーザル

介護支援専門員 賀来 貴子

一昨年からは、岡山プライマリ・ケア学会の作業部会委員が中心となり、連携シート「むすびの和」を作成してきました。このたび、浅口医師会会長の福嶋啓祐先生のご尽力と、浅口介護支援専門員連絡協議会にご協力を頂き、浅口管内で連携シート「むすびの和」のモデル事業を実施することになりました。

その事業の一環といたしまして、平成二十三年六月三十日(木) 十八時より、浅口市健康福祉センターにて、連携シート「むすびの和」の研修会を行いました。研修委員長の宮原伸二先生と賀来が講師として、シートの利用目的や連携の仕方、具体的なシートの使い方などについて説明を行いました。研修会にはケアマネジャーをはじめ、医師、MSW、サービスマネージャーなど約七十名が参加され、みなさん熱心に話をきいておられました。「浅口でも、連携が重要であることはわかっていますが、まだまだ追いついていません」といわれる状況の中、連携に対する皆様の関心の高さがう



かがわれました。連携の必要性が叫ばれている今日この頃ですが、すべてはご利用者様(患者様)のために！各関係者がどうしたらうまく連携ができ、良い支援につながるのか、といったところの理解が重要だと思われまます。在宅で支えていくためには、今まであった、病院間の連携だけでなく、病院とケアマネジャー、さらには在宅医や各サービスマネージャーと連携していくことが不可欠であること、ご本人の思いをかなえるべく、また秘められた能力を見出し、ご本人の望まれる生活を実現するための支援(ICFの理念を取り入れる)が必要であることなど、今回の研修をとおしてお伝えできたのではないかと思っております。

今後は、報告会などを通して、現場の貴重なご意見をいただきながら、よりよい連携のためのシ

シートに改良していききたいと思っております。また、他の地域についてもモデル事業を通してシートの普及に努めていく予定です。シートを通して、医療・介護・福祉がよりスムーズに連携できるように仕組みを構築していくことが、これからの重要な課題と思われまます。最後になりましたが、浅口医師会、浅口介護支援専門員連絡協議会の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

## ○「医療連携勉強会」に参加して

浅口介護支援専門員連絡協議会  
池之上 章

「医療連携勉強会」を去る六月三十日、浅口市健康福祉センターに於いて開催しました。

今回の勉強会は、浅口医師会が岡山プライマリ・ケア学会より「連携シート むすびの和」創出事業の受託を受けて、浅口介護支援専門員連絡協議会が協力し企画されました。

勉強会には、浅口市・浅口郡里庄町内より、医師・介護支援専門員・医療ソーシャルワーカー・介護保険サービス提供者等、六十六名が参加されました。私共の予想を超える参加人数で、医療連携に対する関心の高さが伺えました。

講師には、NPO法人総合ケアシーザル理事長の宮原伸二氏、同法人の居宅介護支援事業所管理者の賀来貴子氏をお招きしました。

宮原先生からは、「むすびの和」の概要、各記載項目に込められた意味、ICFの考え方等を解

りやすく丁寧に説明頂きました。賀来氏からは、「むすびの和」を実務で使用した経験を基に記載方法に関する留意点を説明して頂き、実際の実務に於いての活用方法がイメージでき大変参考になりました。



勉強会に参加した方々からは、「このシートが活用されると本当に他職種との連携が可能になる。」（医師）・「まず、退院時に活用してみよう。」（ケアマネ）・「連携シートの使い方が良く解った。」（ケアマネ）・「ここ最近、医療連携・医療連携と言われているが、色々なシートがありどれを使用しているのか迷っていた。今回の勉強会が良いきっかけとなった。」（ケアマネ）・「入院時に早速、担当ケアマネが連携シートを持ってきてくれ入院前の在宅での状況がよく把握できた。」（MSW）と大変前向きな感想が聞かれ医療・保険・福祉の連携の大きな第一歩になればと思っております。

## ◆研修会等の予定

### 岡山県医師会 プライマリ・ケア部会 研修会

日時：平成二十三年九月二十三日（金・祝）  
十時～十二時

場所：岡山衛生会館 五階 中ホール

「医療・介護職のための感染症の知識」

岡山県保健福祉部

健康推進課長 則安 俊昭

【ワクチンや抗生剤、抗ウイルス剤の普及等により、感染症の予防や治療は大きく進歩したが、一方では、高齢化の進展や新たな感染症の発生等により、前にも増して厳重な対策が求められ、また、関係者の誤解のために過剰な対策が行われている場合もある。感染症対策は、感染症の蔓延防止と人権の保護の両方の観点から、感染症に対する正しい理解の下に、法令等に則って適切に行われる必要がある。

このたびの研修では、感染症診療の最先端の情報ではなく、行政・公衆衛生の立場から、医療・介護関係者が現場で適切に対応するために、当たり前に知っておいていただきたい内容を説明する】

## 在宅ケア パネルディスカッション

テーマ：在宅認知症を支える

日時：平成二十三年十一月二十六日（土）

午後二時三十分～五時

場所：三光荘 アトリウムホール  
演者

森本外科・脳神経外科医院

副院長・看護師長 金田弘子

シンポジスト

塚本医院 院長 塚本眞言

みつ訪問看護ステーション看護協会

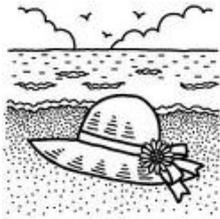
管理者 江田純子

サンキウエルビー介護センター岡山

管理者 森本恵子

金光病院指定居宅介護支援事業所

管理者 小川一美



## ◆岡山プライマリ・ケア学会 会則

（名称及び事務所）

第一条 本会は岡山プライマリ・ケア学会と称し事務所を岡山市中区古京町一―一―十岡山県医師会内に置く。

（目的）

第二条 プライマリ・ケアに関わる保健・医療・福祉・介護関係者の生涯学習と多職種連携を主たる目的とする。日本プライマリ・ケア連合学会及び岡山県医師会、関連団体と連携して各種事業を行う。又岡山県内のプライマリ・ケアに関する各職種団体と協力する。

（事業）

第三条 本会は前条の目的を達成するため、次の事業を行う

年一回 岡山プライマリ・ケア学会学術大会を行う。その他研修会など目的達成に必要な事業を幅広く行う。

（会員）

第四条 本会の会員は、岡山県内で主に医療・保健・福祉・介護に携わり、岡山プライマリ・ケア学会の趣旨に賛同し入会を希望する者とする。本会の会員は日本プライマリ・ケア連合学会に入会することが望ましい。

二 本会に入会しようとする者は、入会申込書を提出し、役員会の承認を必要とする。別に定める会費を納入しなければならない。

三 正当な理由なくして、会費を二年以上滞納したときは退会とする。

（役員）

第五条 本会は次の役員を置く。

（一）会長 一名

（二）副会長 二名

（三）委員 若干名

（四）監事 二名

二 本会に顧問等を置くことができる。

（職務）

第六条 会長は本会を代表し、会務を総理する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代理し、その職務を代行する。監事は会務を監査する。役員は会務を執行する。

（役員の任期）

第七条 役員任期は二年とする。但し、再任は妨げない。

（会議）

第八条 会議は総会、役員会の二種とする。

一 総会は毎年一回以上会長が招集する。

二 次の事項は役員会の議を経た後、総会において議決又は承認されなければならない

い。但し、出席者会員の過半数の賛成を要する。

(一) 会務報告

(二) 会則の変更

(三) 役員を選出

(四) 会費

(五) その他、重要な会務

三 役員会は会長が招集する。

四 会長は会務運営および調査・研究上必要と認めたときは、役員会の議を経て、委員会を置くことができる。委員会に關し必要な事項は、役員会において定める。

(会費)

第九条 会費は付則により納入する。

(會計)

第十条 本会の経費は会費、寄付金、その他の収入をもって充てる。

二 會計年度は毎年四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終わる。

#### 附 則

1 この会則は平成二十一年五月二十四日より発効する。

2 この会則は平成二十三年四月二十四日より一部改正。

3 会費は年額二千円、医師・歯科医師・薬剤師は五千円とする。

◆お願い



今年度の会費につきまして、お手数ですが先にお送りしています、郵便局払込取扱票によりご納入いただきますようお願いいたします。  
また、学会に対してのご意見、ご感想などもお聞かせください。

#### 編集後記

このたびの東日本大震災の被害にあわれた皆様にもよりお見舞い申し上げます。

この度、皆様のご協力を得て、短い準備期間であったにもかかわらず、創刊号を無事発行することができました。今回は、創刊号にふさわしく、当学会顧問の青山先生の榮譽をご紹介することができうれしく思います。

また、今年一年の活動計画も紹介させていただきましたので、奮ってご参加のほどお願いいたします。

今後も、会員の皆様の声もたくさん取り入れ、わかりやすい紙面にしていきたいと思います。よろしくお願い致します。

暑さ厳しき折、支援する私たちが元気で過ごすことが何より大事なことと思っております。

皆様ご自愛ください。

編集委員

菅崎 仁 美

丸田 康 代

河原 喜美恵

#### 編集・発行

岡山フライマリ・ケア学会 事務局

〒703-8522

岡山市中区古京野一―十

(岡山県医師会内)

TEL: 086-272-3225

FAX: 086-271-1572